



三好市



三好市は、「ともに育ちともに輝く次代の子ども～豊かな自然と地域の絆の中で～」を基本理念として、子どもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援に取り組んでいます。

具体的には、ライフステージを通して、切れ目のない支援を行うことや必要に応じた子どもや家庭へのきめ細やかな支援の充実などです。

このような取り組みに加え、個性を大切に、全ての子どもたちが輝きながら健やかに育つことのできる環境をつくり、子どもたちの成長と自立を応援しています。

子どもが豊かに育ち、保護者が安心して子育てができる地域は誰もが暮らしやすい地域です。三好市はこれからもそのような地域づくりを考え、取り組んでいきます。



三好市こども家庭センター ぱれっと



三好市では令和6年4月1日に「三好市こども家庭センターぱれっと」を開設。母子保健サービスを担う母子保健と児童相談等の児童福祉が一体となり、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行っています。

母子保健と児童福祉が連携

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制

妊娠前

妊娠期

出産

産後

育児

こども家庭センター ぱれっと は妊産婦・子ども・子育て家庭に関する相談支援の窓口です。産前産後の身体や心のこと、お子さんのこと、育児のこと、家庭の心配事など、お気軽にご相談ください。



こんなとき

- 妊娠、出産、子育ての話を聴いてもらいたい
- 産後ケアでリフレッシュしたい
- 離乳食が進まない
- 子どもを一時的に預かってもらいたい
- 子どもの発達が気になる
- 子どもが学校に行きづらいみたい
- イライラ、モヤモヤする など

「ぱれっと」では、すべての妊産婦・子育て世帯・子どもを対象に、保護者だけでなくお子さん自身からの相談も保健師、家庭相談員等がお聞きし、一緒に考え、解決を図っていきます。相談者のお困りごとに寄り添い、お話を聞きながら、その世帯に必要な社会サービスを提供できるよう伴走型の支援を行っています。

～ぱれっとの名称に込められた想い～

パレットに色々なカラーを並べ、自由にキャンバスに描いていく。

それぞれのカラーは他のどの色にもない
素晴らしさがあって素敵です。

そして、パレットの上でそれぞれの色が
混ぜ合わさってできるカラー、
これもまた素敵です。

子どもたち1人ひとりが持つカラー（個性）を
大切にしてもらいたい、
また尊重し合える社会であってほしい…

そんな願いを込めて…

「ぱれっと」ができました。



ぱれっとスタッフ

前列右から山本センター長、加藤統括支援員、森保健師、後方右から福田主幹、佐藤家庭相談員、平尾相談員、大西助産師、千葉保健師

三好市こども家庭センター ぱれっと

三好市池田町シンマチ1474番地(子育て支援課内)

※令和7年度中に保健センターに移転

電話:0883-72-7666

E-mail:palette3444@city.tokushima-miyoshi.lg.jp

三好市はぐみクラブ「親子体操 ～楽しみながら体幹を鍛えよう～」

健康運動実践指導者キッズスポーツインストラクターの柏原葉月さんを講師に迎え、三好市保健センターにて昨年9/30、11/25に開催。

体を動かして遊ぶ楽しさを みんなで体験!

今回、2回目の開催となった三好市はぐみクラブ「親子体操」には、乳幼児から就学前の子どもたちと、その保護者が三好市保健センター多目的ホールに集まりました。会場では体を使って遊ぶたくさんのメニューが用意され、講師の柏原葉月さんの指導で親子で楽しく体を動かして遊ぶ体験をしました。

最初に準備運動として親子でリズムに合わせて歩

きながら体を慣らすことから始まります。次にカードに描かれたそれぞれの動物の特徴をまねて表現します。コアラのカードでは、子どもがコアラになって親子で抱っこに慣れることができます。またキリンのカードでは、お母さんに高く差し上げられて喜ぶ子どもを見て、お母さんたちにも笑顔がこぼれました。その他にもボールやフラフープを使っていろんな遊び方も体験しました。

最後には月齢、年齢で選べる障害物のコースにそ

れぞれが挑戦し、ゴールを目指しました。中には乳幼児には難しいコースに、お母さんや柏原さんのサポートを受けながら一生懸命に挑戦する姿もありました。

参加したお母さんからは「前はハイハイしかできなかった。今回は歩けるようになって、いろんな遊び方を親子で体験できた。子どもの成長も実感できてとても良かった」。別のお母さんは「家にある物で簡単にできる遊び方を教わったので、家でも親子で一緒に遊びたい」という感想がありました。



スポーツでとくしまの子どもたちを 笑顔と元気に!!

10年以上前から定期的に三好市子育て支援センターで親子体操を実施してきたという柏原さん。普段は0歳から高齢者まで、種目とか体操競技ではなく、幅広く体操や運動のサポートをしています。

幼稚園、保育所、子育て支援センターなどでは、成長段階でいろんなことができるようになるために、親子でいろんな運動経験をしてもらい、体を動かすことの楽しさを伝えています。

「最近はお母さんが抱っこの仕方とか、遊ぶ加減が分からないといわれる方も多いので、今回の動物カードの抱っこや、鉄棒やでんぐり返しなどで子どもの反応、重さの感覚などを感じてもらい、親子で遊びのひとつとして少しずつ慣れていってもらいます。また、お子さんが就学前くらいになると、運動が苦手だな、恥ずかしいとかでスポーツにチャレンジしなくなる子も増えてくるので、幼児期に体を動かして遊んだ経験が、スポーツ少年団への参加や、生涯スポーツにつながります」と、今回の遊び方を参考にしてスポーツや、運動に親しんで欲しいと柏原さんは話してくれました。



講師：柏原葉月さん
えがお+for kids sports 代表。
スポーツ・運動遊びを通じて、県内の子どもたちの基礎体力やコミュニケーション能力の向上を図り、心身ともに豊かで健康な人間形成を目的に活動。